

2022年度  
人の流れプロジェクト共同研究まとめ

目次

1. 2022 年度共同研究一覧 .....	1
2. 共同研究詳細 .....	7
2.1. 首都圏における地域モニタリング手法に関する研究 .....	8
2.2. パーソントリップデータを用いた消費者吸引モデルの検討 .....	9
2.3. モバイルネットワークにおける情報伝搬 .....	10
2.4. 経路の遮蔽を回避する都市地図の自動生成とそのナビゲーションシステムへの応用 .....	11
2.5. 空間ストリームデータ分析に関する研究 .....	12
2.6. 人口・産業集積の時空間ビッグデータ解析 .....	13
2.7. 人の流れデータを用いたトリップ特性に関する都市圏比較の研究 .....	14
2.8. 都市と道路の共発展モデルからみる人口の地理的分布 .....	15
2.9. UNDERSTANDING HUMAN MOBILITY PATTERNS AND URBAN GEOGRAPHY .....	16
2.10. 社会構造変化を考慮した交通ネットワーク評価に基づく地域防災機能向上に関する研究 .....	17
2.11. 都市内コミュニケーション便益の推定 .....	18
2.12. 文化的価値を継承したまちづくりに向けた 3 次元空間解析と提案に関する研究 .....	19
2.13. 大都市圏における子育てと仕事の両立に向けた時間地理学的研究 .....	20
2.14. 地方自治体における産官学の空間データを活用した空き家分布推定手法の研究 .....	21
2.15. デジタルシティ実現に向けたデータプラットフォーム構築に関する研究 .....	22
2.16. ゲノム比較と人流データの統合活用に基づく結核の伝播経路推定 .....	23
2.17. 駅の勢力圏の決定要因とその影響に関する分析 .....	24
2.18. 都市の拠点集約と拠点間ネットワークの空間分析 .....	25
2.19. 気候変動適応を目的とした空間計画ガイドラインの作成 .....	26
2.20. 都市変容の時空間分析: 明治期からの青山都市領域の事例研究 .....	27
2.21. 都市住人の消費アクセスの定量化: 数量空間経済学アプローチ .....	28
2.22. SIMULATION MOBILE DATA FOR VALIDATION THE RELIABILITY OF ESTIMATION RESULTS FROM TRAJECTORY DATA .....	29
2.23. 集約型都市構造の形成のための都市施設利用における利便性評価の日韓比較研究 .....	30
2.24. IMPACT EVALUATION OF INFRASTRUCTURE PROJECTS USING REMOTE SENSING AND SPATIAL TRADE MODEL .....	31
2.25. A STUDY ON PRIVATE PROXIMITY QUERY .....	32
2.26. 人流データを用いたコミュニティ検出手法の研究 .....	33
2.27. 「観測ビッグデータ同化」による大地震時のリアルタイム避難者分布推定技術の開発に関する研究 .....	34
2.28. 遅延耐性ネットワークに基づく学習支援システムに関する研究 .....	35
2.29. 地方都市における地域包摂型まちづくりの活動による空間変容への評価に関する研究 .....	36
2.30. 都市構造モデルに基づいた COVID-19 感染拡大シミュレーションに関する研究 .....	37
2.31. 強化学習に基づく人の流れのシミュレーションのためのエージェントモデルの構築とその応用 .....	38
2.32. TWITTER データを用いた建築・都市における混雑度推定に関する研究 .....	39
2.33. 保育所選択行動モデルの構築とその応用に関する研究 .....	40
2.34. 木造住宅密集地域の魅力分析に関する研究 .....	41
2.35. オープンな統計データを用いた骨格的人流データの作成 .....	42
2.36. QUANTIFICATION OF URBAN POLICY IN DEVELOPING CITIES: COMMUTING, LAND DEVELOPMENT AND	

EXTERNALITIES IN A CITY .....	43
2.37. 多様なビッグデータを用いた都市空間容量の分析に関する基礎的研究 .....	44
2.38. 深層学習による歩行者流動調査に関する基礎的研究 .....	45
2.39. 多様な交通ビッグデータの高度利用に関する基礎的研究 .....	46
2.40. デジタルアースを用いた新型コロナウイルス感染症対策に関する研究 .....	47
2.41. 国際共同研究による持続可能な都市発展モデルの構築—都市発展と縮退需要を両立する都市像の実現を目指して— .....	48
2.42. 東京都区部における多心型都市構造の評価に関する研究 .....	49
2.43. 人口統計データを使った様々な交通手段の移動需要予測と再配置最適化 .....	50
2.44. UNDERSTANDING WELFARE DIFFERENCES ACROSS CITIES IN THE WORLD .....	51
2.45. 大規模人流データを用いた時空間内挿技術の開発 .....	52
2.46. 歩行者交通流における属性抽出に関する基礎的研究 .....	53
2.47. 動画像を用いた群衆計数に関する基礎的研究 .....	54
2.48. 移動履歴データに基づく地域分類手法の開発 .....	55
2.49. GPS データと都市開発をつなぐプロジェクト .....	56
2.50. 子育て世帯の居住動向と生活行動の解明 .....	57
2.51. 子育て世帯の居住動向と生活行動の解明 .....	58
2.52. 「アルミニウム素材高度資源循環システム構築事業」「資源循環型社会構築に向けたアルミニウム資源のアップグレードリサイクル技術開発」 .....	59
2.53. 歩行者のトリップ距離分布を考慮した歩行者ネットワークの評価 .....	60

## 1. 2022 年度共同研究一覽

2022年度は昨年度からの継続利用 45 件(No.1~No.45)に加え、新たに 8 件(No.46~No.53)が加わり、合計で 53 件の共同研究において人の流れデータが活用された(表 1-1 2021 年度共同研究一覧(53 件))。今年度の新規データの追加は行われなかった。また、海外からの利用申請は 5 件が継続されているが今年度の新規利用申請はなかった。今年度もデータ利用に係るチュートリアルは開催していないが、引き続き、データセットの更新を行うと共に、利用者へのサポートも検討したいと考えている。

これまでは複数都市圏のデータセットを利用される割合が多かったが、今年度は概ね同程度の割合(複数都市利用 25 件,1 都市のみ利用 28 件)であった。引き続き半数の研究では都市間での分析結果の比較や包括的に適用可能なモデルの検討などに利用されているものと推測されるとともに複数年のデータを活用した経年的変化に関係する分析も関心が高いものと推測される。また、近年の機械学習・深層学習の普及に伴い、属性情報を含む移動データとして人の流れデータが学習データ等に採用される機会が増えていると推測される。データセット単位での利用数(表 1-2 データセット別利用状況)を見ると、東京・京阪神・中京の三大都市圏のデータセットの利用数が空間配分による詳細化の有無によらず多く、大都市を対象とした研究事例が多いことが伺える。また、三大都市圏については複数年度にまたがったデータを提供しているため、年度間比較にも利用されていると推測される。

なお、本資料では東京大学空間情報科学研究センターの共同研究利用システム(JoRAS:<https://joras.csis.u-tokyo.ac.jp/>)にて公開されている人の流れデータを利用した共同研究についてまとめている。

表 1-1 2021 年度共同研究一覧(53 件)

NO	共同研究番号	題目	代表者名	代表者所属	利用件数
1	122	首都圏における地域モニタリング手法に関する研究	柴崎亮介	東京大学空間情報科学研究センター	1
2	256	パーソントリップデータを用いた消費者吸引モデルの検討	鈴木英之	合同会社ファインアナリシス	8
3	315	モバイルネットワークにおける情報伝搬	藤原 直哉	東北大学大学院情報科学研究科	18
4	398	経路の遮蔽を回避する都市地図の自動生成とそのナビゲーションシステムへの応用	高橋 成雄	会津大学コンピュータ理工学部コンピュータ理工学科情報システム部門	13
5	614	空間ストリームデータ分析に関する研究	北川 博之	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構	3
6	674	人口・産業集積の時空間ビッグデータ解析	大西 立顕	立教大学 大学院人工知能科学研究科	5
7	690	人の流れデータを用いたトリップ特性に関する都市圏比較の研究	山田 崇史	近畿大学生物理工学部	9
8	699	都市と道路の共発展モデルからみる人口の地理的分布	青木 高明	香川大学 教育学部	3
9	766	Understanding human mobility patterns and urban geography	徐梦倩	School of Economics and Management, Dalian University of Technology	3
10	795	社会構造変化を考慮した交通ネットワーク評価に基づく地域防災機能向上に関する研究	倉内 文孝	岐阜大学工学部社会基盤工学科	3

NO	共同研究番号	題目	代表者名	代表者所属	利用件数
11	797	都市内コミュニケーション便益の推定	中島 賢太郎	一橋大学 イノベーション研究センター	5
12	859	文化的価値を継承したまちづくりに向けた3次元空間解析と提案に関する研究	山田 悟史	立命館大学理工学部 建築都市デザイン学科	3
13	867	大都市圏における子育てと仕事の両立に向けた時間地理学的研究	後藤 寛	横浜市立大学	15
14	880	地方自治体における産官学の空間データを活用した空き家分布推定手法の研究	秋山 祐樹	東京都市大学建築都市デザイン学部/大学院総合理工学研究科東京大学空間情報科学研究センター	2
15	901	デジタルシティ実現に向けたデータプラットフォーム構築に関する研究	瀬戸 寿一	駒澤大学 文学部地理学科東京大学 空間情報科学研究センター	1
16	919	ゲノム比較と人流データの統合活用に基づく結核の伝播経路推定	和田 崇之	大阪市立大学 生活科学研究科	6
17	922	駅の勢力圏の決定要因とその影響に関する分析	浅見泰司	東京大学大学院工学系研究科	2
18	925	都市の拠点集約と拠点間ネットワークの空間分析	鈴木 勉	筑波大学システム情報系	14
19	937	気候変動適応を目的とした空間計画ガイドラインの作成	田中 貴宏	広島大学大学院先進理工系科学研究科	2
20	943	都市変容の時空間分析: 明治期からの青山都市領域の事例研究	岡部篤行	東京大学 空間情報科学研究センター	3
21	954	都市住人の消費アクセスの定量化: 数量空間経済学アプローチ	中島 賢太郎	一橋大学 イノベーション研究センター	5
22	956	Simulation mobile data for validation the reliability of estimation results from trajectory data	柴崎 真理子	東京大学 空間情報科学研究センター	1
23	963	集約型都市構造の形成のための都市施設利用における利便性評価の日韓比較研究	蕙丞 宋	ソウル研究院	1
24	970	Impact evaluation of infrastructure projects using remote sensing and spatial trade model	能勢 学	国際通貨基金	11
25	974	A Study on Private Proximity Query	曹 洋	京都大学	11
26	1005	人流データを用いたコミュニティ検出手法の研究	藤原 直哉	東北大学大学院情報科学研究科	2
27	1013	「観測ビッグデータ同化」による大地震時のリアルタイム避難者分布推定技術の開発に関する研究	小川 芳樹	東京大学空間情報科学研究センター	3
28	1014	遅延耐性ネットワークに基づく学習支援システムに関する研究	木實新一	九州大学	2
29	1025	地方都市における地域包摂型まちづくりの活動による空間変容への評価に関する研究	蕭 耕偉郎	九州大学大学院 人間環境学研究院	4
30	1027	都市構造モデルに基づいたCOVID-19感染拡大シミュレーションに関する研究	佐藤 栄治	宇都宮大学 地域デザイン科学部	4

NO	共同研究番号	題目	代表者名	代表者所属	利用件数
31	1033	強化学習に基づく人の流れのシミュレーションのためのエージェントモデルの構築とその応用	龐岩博	東京大学 生産技術研究所	1
32	1040	Twitterデータを用いた建築・都市における混雑度推定に関する研究	沖 拓弥	東京工業大学 環境・社会理工学院	2
33	1041	保育所選択行動モデルの構築とその応用に関する研究	沖 拓弥	東京工業大学 環境・社会理工学院	1
34	1042	木造住宅密集地域の魅力分析に関する研究	沖 拓弥	東京工業大学 環境・社会理工学院	1
35	1046	オープンな統計データを用いた骨格的人流データの作成	樫山 武浩	東京大学生産技術研究所	2
36	1048	Quantification of Urban Policy in Developing Cities: Commuting, Land development and Externalities in a City	ダニエル スターム	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス	3
37	1068	多様なビッグデータを用いた都市空間容量の分析に関する基礎的研究	今井 龍一	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	2
38	1069	深層学習による歩行者流動調査に関する基礎的研究	今井 龍一	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	3
39	1074	多様な交通ビッグデータの高度利用に関する基礎的研究	今井 龍一	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	4
40	1076	デジタルアースを用いた新型コロナウイルス感染症対策に関する研究	安本 晋也	中部大学 中部高等学術研究所	9
41	1079	国際共同研究による持続可能な都市発展モデルの構築—都市発展と縮退需要を両立する都市像の実現を目指して—	久保倫子	筑波大学生命環境系	3
42	1083	東京都区部における多心型都市構造の評価に関する研究	出口 敦	東京大学 大学院新領域創成科学研究科	5
43	1091	人口統計データを使った様々な交通手段の移動需要予測と再配置最適化	関本義秀	東京大学空間情報科学研究センター	1
44	1137	Understanding Welfare Differences across Cities in the World	宮内 悠平	ボストン大学 経済学部	35
45	1148	大規模人流データを用いた時空間内挿技術の開発	藤原 直哉	東北大学大学院情報科学研究科	3
46	1158	歩行者交通流における属性抽出に関する基礎的研究	今井 龍一	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	1
47	1159	動画像を用いた群衆計数に関する基礎的研究	今井 龍一	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	2
48	1184	移動履歴データに基づく地域分類手法の開発	井上 亮	東北大学大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻	2
49	1187	GPSデータと都市開発をつなぐプロジェクト	今井 龍一	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	2
50	1199	子育て世帯の居住動向と生活行動の解明	佐藤 将	早稲田大学 人間科学学術院	1

NO	共同研究番号	題目	代表者名	代表者所属	利用件数
51	1200	子育て世帯の居住動向と生活行動の解明	佐藤 将	早稲田大学 人間科学学術院	1
52	1209	「アルミニウム素材高度資源循環システム構築事業」「資源循環型社会構築に向けたアルミニウム資源のアップグレードリサイクル技術開発」	河尻理恵子	株式会社エイゾス	5
53	1219	歩行者のトリップ距離分布を考慮した歩行者ネットワークの評価	櫻井雄大	東京大学 生産技術研究所	1



表 1-2 データセット別利用状況

データセット	件数	データセット	件数
1988 東京	15	2001 中京(空間配分)	5
1998 東京	16	2001 静岡中部(空間配分)	2
2008 東京	24	2011 中京(空間配分)	12
2000 京阪神	9	2005 北部九州(空間配分)	2
2001 中京	6	2004 岳南(富士市・富士宮市)(空間配分)	3
2005 北部九州	1	2015 群馬(空間配分)	4
1997 高知	2	2012 熊本(空間配分)	2
1999 富山・高岡	1	2010 近畿(空間配分)	18
2002 仙台	4	2016 東駿河湾(空間配分)	6
2006 沖縄本島中南部	1	1996 マニラ	4
2007 金沢	1	2002 ジャカルタ	6
2007 西遠	1	2004 ハノイ	7
1994 岡山県南	1	2009 ダッカ	9
2005 秋田(秋期)	1	2012 マプト(空間配分)	4
2006 郡山	1	2001 カイロ(空間配分)	5
2001 宮崎	1	2010 ラホール(空間配分)	4
2001 静岡中部	1	2013 ナイロビ(空間配分)	6
1998 東京(空間配分)	14	2003 ホーチミン(空間配分)	5
2008 東京(空間配分)	28	2008 ダナン(空間配分)	5
2000 京阪神(空間配分)	12	2012 プノンペン(空間配分)	4

## 2. 共同研究詳細

## 2.1. 首都圏における地域モニタリング手法に関する研究

共同研究番号	122			
研究開始日	2006-05-23			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	柴崎亮介			
研究代表者所属	東京大学空間情報科学研究センター			
研究題目	首都圏における地域モニタリング手法に関する研究			
研究概要	<p>都市における空間情報は、従来からの各種調査もしくは商用的な情報提供等の形で整備・蓄積されてきている。近年 GIS 及び Web の発展とともに、それらの情報はそれぞれの使用目的に応じた形式でデジタル化され蓄積されてきている。しかし、それらのデジタルデータの利用形態は多様化しつつあるが、一般的には依然として閲覧などの単一的な目的のために使用されることが多い。一方、デジタル化されたデータは GIS 及び計算機等を用いることにより、空間結合、アドレスマッチング、言語処理等を高速に行うことが可能となるため、都市における複雑化したテナント変遷等の情報を広域的かつ継続的に分析するのに有効である。そこで、本研究においては、ゼンリンデジタルマップ(Zmap)、タウンページ他の既存データを利用し、効率的に都市空間を分析することのできる手法及びツールを開発することを目的とする。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	○
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				1

## 2.2. パーソントリップデータを用いた消費者吸引モデルの検討

共同研究番号	256			
研究開始日	2009-11-01			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	鈴木英之			
研究代表者所属	合同会社ファインアナリシス			
研究題目	パーソントリップデータを用いた消費者吸引モデルの検討			
研究概要	<p>小売商圈研究において従来、小売引力モデルや類推法等の枠組みが示され商業経営の現場においても活用されてきた。これら商圈概念はセンサスにおける昼夜間人口をその基盤とするため、買い回り消費や遊興行楽消費にかかる消費者行動、特に都市圏商業の実態を十分に説明するものではなかった。そのための実務的対応として、店舗・商圈のクラスタリング手法や層別マネジメントが経験的試行錯誤のうえ繰り返されてきたが、理論的解釈や実証的評価は未だ充分にはなされてはいない。本研究では、商圈研究における消費者吸引モデルの基盤となる母数として居住地顧客、就業地顧客に加えパーソントリップデータを加工することによって得られた通過客指数を需要の3番目の説明変数とする消費者吸引モデルを検討する。具体的には地理加重回帰モデル(GWR)を用いて各消費者母数の需要に対するパラメータをメッシュ別に推定し、吸引パターン別クラスタリングを行う。小売業種・業態別ポイントデータとの比較により、当モデルの有用性についても検証してみる。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	○	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				8

### 2.3. モバイルネットワークにおける情報伝搬

共同研究番号	315			
研究開始日	2010-12-17			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	藤原 直哉			
研究代表者所属	東北大学大学院情報科学研究科			
研究題目	モバイルネットワークにおける情報伝搬			
研究概要	<p>近年、多くのネットワークが系の詳細によらず共通の性質を持つことが明らかになり、「複雑ネットワーク科学」として盛んに研究されている。複雑ネットワークの中に、エージェントが移動しながら他のエージェントと相互作用する系(モバイルネットワーク)がある。情報通信におけるモバイルアドホックネットワークや、人の移動を介した伝染病拡散などがその例で、一見全く異なる系を同一の枠組みで捉えることが可能であり、効率的な通信プロトコルや伝染病の拡散を遅らせる戦略の提案などの応用が期待される。近年、我々はモバイルネットワークにおける情報伝搬時間の、エージェントの空間分布、移動速度、相互作用に対する依存性を理論的に予言した。エージェントの行動パターンとしてパーソントリップデータを用い、モバイルネットワークにおける情報伝搬を解析することが、本研究の目的である。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	○
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	○
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	○
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	○
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	○
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	○
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	○
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	○
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	○
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	○
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	○	
データセット利用数				18

2.4. 経路の遮蔽を回避する都市地図の自動生成とそのナビゲーションシステムへの応用

共同研究番号	398			
研究開始日	2012-02-24			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	高橋 成雄			
研究代表者所属	会津大学コンピュータ理工学部コンピュータ理工学科情報システム部門			
研究題目	経路の遮蔽を回避する都市地図の自動生成とそのナビゲーションシステムへの応用			
研究概要	都市地図の可視化は、比較的高い建物が建ち並ぶため、その経路情報が遮蔽されることが多く、実際の地図として用いるためには、何かしらの変形を行なう必要がある。本研究は、道路と建物のデータを入力に取り、自動的に経路の遮蔽を回避する都市地図の変形を計算するアルゴリズムの構築を目指す。さらに、そのアルゴリズムを視点移動がある場合に応用できるように拡張を図り、常に経路の遮蔽が回避できるようなナビゲーションシステムの構築も行なう。			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	○	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	○	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	○
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	○
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	○
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	○
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				13

## 2.5. 空間ストリームデータ分析に関する研究

共同研究番号	614			
研究開始日	2015-08-07			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	北川 博之			
研究代表者所属	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構			
研究題目	空間ストリームデータ分析に関する研究			
研究概要	<p>CSIS共同研究「空間ストリーム情報統合に関する研究」(実施期間:2013-07-06 ~ 2015-03-31)を発展させ、空間情報ストリームの分析手法について研究する。具体的には、各種空間ストリームデータの多次元分析を実現するための手法について研究を行う。研究者らは、これまでストリーム処理エンジンに関する研究を長年行い、独自エンジンの開発を行ってきた。近年では、ストリーム処理エンジンと多次元分析エンジンを組み合わせた多次元ストリーム分析のためのシステムアーキテクチャを提案し、そのプロトタイプシステムを現在構築中である。本共同研究では、具体的な大規模空間ストリームデータを用いて、その有効性や問題点の検証等を行う。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				3

2.6. 人口・産業集積の時空間ビッグデータ解析

共同研究番号	674			
研究開始日	2016-04-29			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	大西 立顕			
研究代表者所属	立教大学 大学院人工知能科学研究科			
研究題目	人口・産業集積の時空間ビッグデータ解析			
研究概要	<p>大量でマイクロな地理空間情報を用いて、全国規模で人・店舗・施設の詳細な時系列変化(時空間ビッグデータ)を分析する。スーパーコンピュータを活用してこれらの時空間ビッグデータを効率的に処理し、統計科学、経済物理学、社会物理学、複雑ネットワーク科学、複雑系科学の視点から考察することで人口・産業の集積現象を解析する。人口が倍に増えると店舗・施設は何倍に増えるかを様々な空間スケールで網羅的に観測する。職種・業種等の詳細に依存して人・店舗・施設がどのようなスケーリング則に従うかを明らかにし、都市を特徴づけるスケーリング指数を開発する。そして、全国の住民一人一人について、どのくらい離れた距離に商店、病院、学校、避難所、若年層等が存在しているかを計測し、地域社会における生活基盤の持続可能性指標を開発する。さらに、緯度経度・ID 情報付き Twitter データから特定の人の移動履歴を抽出し、ヒトの移動に関する全国規模で網羅的なデータを作成し、Zmap TOWN II (2013/14 年度) を用いてヒトの周遊行動と居住・勤務する建物の間の関係性を解析する。また、Zmap TOWN II (2013/14 年度, 2008/09 年度, 1997/98 年度)を用いて建物の時系列地図を作成して時間変化を観測することで、都市が発展・衰退する過程を解析する。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				5



2.7. 人の流れデータを用いたトリップ特性に関する都市圏比較の研究

共同研究番号	690			
研究開始日	2016-07-07			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	山田 崇史			
研究代表者所属	近畿大学生物理工学部			
研究題目	人の流れデータを用いたトリップ特性に関する都市圏比較の研究			
研究概要	<p>パーソントリップ調査では、各都市圏において基礎的集計が行われ、過去の調査結果との比較が行われている。しかし、他都市圏と比較した結果については、交通手段やトリップ目的の集計等といった調査結果の一部を単純集計した比較(※1)はあるが、より詳細な都市圏比較に関する内容は事例が少ない。本研究では、移動時間と滞在時間に着目して都市圏の間で比較を行い、都市圏の間における共通点および相違点を明らかにする。各都市圏のトリップ特性を比較することにより、これまで明らかになっていない都市に存在する特徴を明らかにすることができる。各都市圏における人の流れデータの分析を通じて、今後の街づくりを行うための基礎材料を見出すことを目的とする。さらに得られた結果が各都市圏の空間構造とどう関係しているのか考察する。参考文献※1: 中京都市圏総合都市交通計画協議会、第5回中京都市圏パーソントリップ調査結果の概要、平成26年7月16日</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	○
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市(空間配分))	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	○
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	○
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	○
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				9

2.8. 都市と道路の共発展モデルからみる人口の地理的分布

共同研究番号	699			
研究開始日	2016-09-02			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	青木 高明			
研究代表者所属	香川大学 教育学部			
研究題目	都市と道路の共発展モデルからみる人口の地理的分布			
研究概要	<p>ヒトの集住について従来、歴史・地理学の視点から地勢や気候(自然環境要因)や、交通・交易の立地条件や権力・支配構造(社会・経済的要因)から議論されてきた。しかしこれらの議論は、既に存在する都市の利点を後追的に説明する形となっており、逆に諸要因を集住の基本原則として規定し、演繹的に現実の都市やその分布を説明することをしてこなかった。本課題では、特に基本原則として、人の集住と交易路との循環的な因果関係に注目する。交易路は集住地を繋ぎ発達する一方、交易路を介した交易の流れに応じて集住が変化する。このような循環的因果関係を集住の基本原則と仮定して、実際の地形条件下において集住の位置と規模を再現できるか検証する。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	○
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				3

## 2.9. Understanding human mobility patterns and urban geography

共同研究番号	766			
研究開始日	2017-07-06			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	徐梦俏			
研究代表者所属	School of Economics and Management, Dalian University of Technology			
研究題目	Understanding human mobility patterns and urban geography			
研究概要	<p>Understanding the dynamics of the individuals' daily mobility patterns has long been a fundamental issue for urban planning and management, and tremendous efforts have been made to reveal the possible universal laws governing human urban mobilities. Given the diversity of world cities in terms of both geographical space and socio-economic aspects, however, it remains a challenging task to set forth a unified framework towards clearly uncovering the factors driving human urban mobilities and the influence of these factors on the structural stability and evolution of urban systems. This project aims to better understand the dynamic interplay between human mobility and urban space, by looking into the empirical daily travel trajectories of individual citizens. Our main research focus are twofold. First, we will investigate the spatial and temporal patterns of human urban activities over a variety of cities, and examine how the geography of a city, i.e. the geographical distribution of its settlements, impacts human mobility patterns. Second, we will further explore how human urban activities affect urban space, e.g. the evolution processes of urban land-use patterns and urban spatial segregation. Outcomes of this research project may deepen our understanding of various phenomena driven by human urban mobility, from epidemic prevention, transportation system efficiency to land use sustainability, thus contributing to urban planning to achieve a permanent goal of "better city".</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				3

2.10. 社会構造変化を考慮した交通ネットワーク評価に基づく地域防災機能向上に関する研究

共同研究番号	795			
研究開始日	2018-01-01			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	倉内 文孝			
研究代表者所属	岐阜大学工学部社会基盤工学科			
研究題目	社会構造変化を考慮した交通ネットワーク評価に基づく地域防災機能向上に関する研究			
研究概要	<p>幾度となく自然災害に見舞われる我が国において、災害時に深刻な機能不全に陥らない持続可能性の高い社会の実現が必要である。本研究では、市町村合併や社会システムの効率化等の平常時の社会の持続可能性を高める取り組みによって交通ネットワークへの依存が高まり、かえって災害時の社会脆弱性を高める可能性について提起したい。そのため、社会構造の経時的な変化を考慮した新たな交通ネットワーク評価手法を構築する。具体的には、実際のデータより複数時点での土地利用・人口分布、施設立地状況、交通システムの変化の関係性を分析することで、社会構造変化と交通システムの変化の関係を明らかにし、これら土地利用・施設立地・交通システムの相互関係を1つのネットワークとして表現するマルチレイヤネットワークの構築をおこなう。立地選択や施設選択の意思決定による動的な社会構造の変化を1つの構造体として示すマルチレイヤネットワークを構築し、複雑ネットワーク理論を活用することで、ネットワーク形状論からの総合的な評価を可能とする。これにより、大規模ネットワークに適用可能かつ動的な社会構造変化に対応した実用性を兼ね備えた防災機能評価をおこなう。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	○
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	○	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				3

2.11. 都市内コミュニケーション便益の推定

共同研究番号	797			
研究開始日	2017-12-20			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	中島 賢太郎			
研究代表者所属	一橋大学 イノベーション研究センター			
研究題目	都市内コミュニケーション便益の推定			
研究概要	<p>本研究の目的は、都市内における企業間コミュニケーション便益を推定することである。取引関係の構築・維持、あるいは共同研究など、企業の業務において他企業とのコミュニケーションは必要不可欠である。近年の ICT の発達により、コミュニケーションは円滑になったとはいえ、やはり顔をつきあわせたコミュニケーションは未だ重要な役割をはたしており、これは都市集積の大きな要因の一つであると考えられる。本研究は、人の流れデータを用いて、重力モデルによって業務目的トリップの距離弾力性を測定することで、この face-to-face コミュニケーションの便益を計測することを目的とする。また、このコミュニケーションコストを通じた集積の経済について、不動産価格情報を用いた推定を行う。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				5

2.12. 文化的価値を継承したまちづくりに向けた3次元空間解析と提案に関する研究

共同研究番号	859			
研究開始日	2018-12-05			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	山田 悟史			
研究代表者所属	立命館大学理工学部 建築都市デザイン学科			
研究題目	文化的価値を継承したまちづくりに向けた3次元空間解析と提案に関する研究			
研究概要	<p>建築・都市の文化的価値を保全・継承した歴史都市のまちづくり計画には、文化的価値・計画に対する学術的知見が特に必要である。例には、文化財の空間デザインとしての文化的価値の定義や特性の把握や、歴史都市の文化的価値として位置付いた都市形態の現代社会への継承方法、などが挙げられる。この観点から本研究は歴史都市の3次元解析とまちづくりにおける活用方法の検討を行う。具体的には、①都市における文化財の眺望特性の3次元解析、②傾斜地に有する都市の街路の3次元ネットワーク解析、③3次元都市データを用いたまちづくりワークショップ、を行う。①では、歴史都市の拠点として位置づけられるランドマーク性を有する文化財(城郭など)の景観特性を3次元可視領域解析により定量的に明らかにする。これは文化財及びバッファ領域の空間デザインを計画・再編する際の基礎資料となり得る。②では、傾斜地に立地する歴史都市の街路(神戸や京都など)を対象に、傾斜をふまえた街路の形態解析方法を提案する。これは避難や観光の街路・施設整備計画の提案になり得る。③では、①②の研究内容の課題把握や成果還元を試みる。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	○	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				3

2.13. 大都市圏における子育てと仕事の両立に向けた時間地理学的研究

共同研究番号	867			
研究開始日	2018-12-24			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	後藤 寛			
研究代表者所属	横浜国立大学			
研究題目	大都市圏における子育てと仕事の両立に向けた時間地理学的研究			
研究概要	<p>本研究では共働きを実現している夫婦世帯の仕事と子育ての両立可能条件を1日の生活時間の分析から明らかにすることであり、これを踏まえた政策提言を目指すものである。大都市居住で子育てと仕事の両立策を図る方法として企業の育児休業制度や保育所の利用はかせないものであるが、需要と供給のミスマッチにより利用できない層も多い。両立化を達成する人を増やすためにも、既存の育児休業制度や保育所を利用しやすくするために両立化達成者がどのような居住地環境及び世帯の状況にあるのかを議論する必要がある。本研究では女性側でのサポート策だけでなく男性側も分析する。男性の育児参加は出生力を高める効果があるが、依然としての育児協力は具体的に何を行うのが効果的なのかが明らかにされていない課題がある。分析方法として人と流れデータを用いて、勤務者のうち送迎行動を行っている者を子育てと仕事の両立者と捉え、これらの人の1日の行動および居住地環境の一般勤務者との差異を男女別に分析し、両立化に必要な政策的インケージョンの提示を目標とする。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	○
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	○	2005 北部九州(空間配分)	○
	2001 中京	○	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	○
	2005 北部九州	○	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	○	2016 東駿河湾(空間配分)	○
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	○
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				15

2.14. 地方自治体における産官学の空間データを活用した空き家分布推定手法の研究

共同研究番号	880			
研究開始日	2019-03-14			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	秋山 祐樹			
研究代表者所属	東京都市大学建築都市デザイン学部/大学院総合理工学研究科東京大学空間情報科学研究センター			
研究題目	地方自治体における産官学の空間データを活用した空き家分布推定手法の研究			
研究概要	<p>近年、空き家の増加が問題となっており、地方自治体はその空間的分布の把握に努めている。しかしながら、目視による現地調査は費用的に現実的でなく、簡易的な空き家分布の把握が要請されている。本研究は、自治体から収集可能な行政保有データを活用して、空家分布推定手法を構築する。その際、精度検証を行うとともに研究成果について和歌山市をはじめとする自治体に汎用可能な空家将来分布推定ツールの構築を行う。以上の目的達成に向けて自治体が保有する公共データや、総務省統計局より提供予定の政府統計マイクロデータの収集・整理を支援するとともに、これらのデータを活用した空き家の現在及び将来の分布推定を行う技術開発に向けた既存手法の調査(文献調査等)、空家将来分布推定モデルの比較検討を行う。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	○
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				2



## 2.15. デジタルシティ実現に向けたデータプラットフォーム構築に関する研究

共同研究番号	901			
研究開始日	2019-06-25			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	瀬戸 寿一			
研究代表者所属	駒澤大学 文学部地理学科東京大学 空間情報科学研究センター			
研究題目	デジタルシティ実現に向けたデータプラットフォーム構築に関する研究			
研究概要	<p>実空間と密接に関係する設計図や施工等で計測された 3 次元点群などの実空間インフラデータは、単体の設計・施工データとして扱うだけでなく、実空間の一側面を捉えている各種 2 次元地図データや 3 次元建物モデル等とシームレスに合わせることで、市・町の全域や、さらに大規模なものでは都市全体で俯瞰できるようになる。都市全体のスケールで実空間の 3 次元データを丸ごと可視化するための方法論は、これまでデジタルシティ(digital cities)あるいは、ジオビジュアライゼーション(geovisualization)として研究でも取り組まれてきた。近年ではさらに人の流れなど動的な地理空間情報等の都市に関する様々なデータを有機的・統合的に扱うことで、デジタルシティ構築へのニーズが高まっている。これを実現する方法の一つとして、実空間インフラデータを仮想空間上に視覚化することで、デジタルシティとしてのイメージの共有や空間的な課題解決に適用できることが期待されている。そこで本研究は、都市インフラに係る 3 次元デジタルデータや広域的な地図データや動的な地理空間情報を視覚化するためのデータ連携プラットフォーム構築を目指すものである。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	○
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
	2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-
データセット利用数				1

2.16. ゲノム比較と人流データの統合活用に基づく結核の伝播経路推定

共同研究番号	919			
研究開始日	2019-09-03			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	和田 崇之			
研究代表者所属	大阪市立大学 生活科学研究科			
研究題目	ゲノム比較と人流データの統合活用に基づく結核の伝播経路推定			
研究概要	<p>結核は患者から患者へと伝染する感染症であり、その伝播経路推定は公衆衛生上において重要である。近年、患者由来の臨床分離株を遺伝子解析し、その相同性から感染源を推定する「分子疫学解析」が着目されている。本手法は感染伝播の科学的根拠として利用され、自治体における感染対策などにも導入されつつある一方、患者情報との統合的な解析、未知の伝播経路の解明においては十分に役割を果たしているとは言いがたい現状にある。感染症の伝播には、感染源となる発症患者と被感染者が空間的に接触する必要があり、患者の居住地や移動パターンが病原体伝播の疫学的背景として重要な意義を持つ可能性が高い。そこで本課題では、メッシュごとの居住者における移動データから接触度を算出し、それに基づいてメッシュ間の距離を定義するとともに、結核菌株のゲノム比較から導き出された患者間伝播の実状との相関性を分析する。人が社会生活を営む中で起こる人流と、病原体ゲノミクスに基づく感染症伝播のエビデンスをつなぐことにより、新たな感染症モデルを生み出すとともに、結核分子疫学の抜本的な向上を目指す。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	○
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	○
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	○
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	○
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				6

2.17. 駅の勢力圏の決定要因とその影響に関する分析

共同研究番号	922			
研究開始日	2019-09-27			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	浅見泰司			
研究代表者所属	東京大学大学院工学系研究科			
研究題目	駅の勢力圏の決定要因とその影響に関する分析			
研究概要	<p>駅勢力圏を駅を中心にその駅を利用すると期待される需要が存在する地理的範囲と定義して、パーソントリップ調査をもとに作成された駅勢力圏を2時点で推定し、その駅を通る鉄道路線の変化・駅周辺の環境変化・駅利用者の心情変化の3つの観点で時間変化からその駅勢力圏の決定要因の分析を行う。具体的には、駅を発着する列車の運行本数や種別などの運行形態の変化との関係を1つ目の鉄道路線の変化で、駅周辺に立地する商業施設や公共施設の分布の変遷、駅に発着するバス路線や駐車場・駐輪場の変化、また駅を中心とした再開発計画との関係を2つ目の駅周辺の環境変化で、さらに住みたい街ランキングの調査結果から分かる駅利用者の評価や考え方の変化を3つ目の駅利用者の心情変化でそれぞれ考察していく。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				2

2.18. 都市の拠点集約と拠点間ネットワークの空間分析

共同研究番号	925			
研究開始日	2019-10-12			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	鈴木 勉			
研究代表者所属	筑波大学システム情報系			
研究題目	都市の拠点集約と拠点間ネットワークの空間分析			
研究概要	<p>市街地拡大と人口密度希薄化により、インフラ維持コストの増大や公共交通の衰退が懸念される中で、都市機能が持続可能となるように、コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造構築に向けた取り組みが進められている。効果的かつ実現可能な都市の目標像を描くためには、都市の拠点集約と拠点間ネットワークについて、人口・土地利用・気候など様々な要素を一体的に把握し、総合的に論じる必要がある。第一に、現状の都市における拠点とその実態をテレポイントデータと大規模小売店ポイントデータ、商業メッシュや商業集積統計などのデータから、都市施設の集積状況を、地区内の道路整備状況も鑑みながら計測し、全国の都市における拠点特性の分類を行う。第二に、拠点内部の交通手段として、徒歩・自転車交通の現状を把握し、拠点の集積性との関連を分析する。また、将来の短距離交通の技術革新による新たな交通モードも考慮し、道路空間や地下空間を含む都市空間での交通処理方式を Zmap TOWN II や人の流れデータから海外の実態も踏まえ検討、さらには気象条件との関連性を空間的に可視化し、分析する。第三に、拠点間ネットワークの交通輸送手段のサービスレベルとその評価方法について、現状の流動を人の流れデータから把握するとともに、移動のための時間的・身体的・経済的コストを踏まえながら、相互の関連性を分析し、拠点とそれらを結ぶネットワークの形態を検証する。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	○
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	○	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	○	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	○
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	○
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	○
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				14

2.19. 気候変動適応を目的とした空間計画ガイドラインの作成

共同研究番号	937			
研究開始日	2019-12-16			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	田中 貴宏			
研究代表者所属	広島大学大学院先進理工系科学研究科			
研究題目	気候変動適応を目的とした空間計画ガイドラインの作成			
研究概要	<p>近年、気候変動が深刻化しており、夏季においては熱中症等の健康被害や、エネルギー消費量の増大、集中豪雨による洪水リスクの増加等、様々な悪影響を引き起こしている。特に都心部では都市ヒートアイランド現象も重なり、その影響は顕著である。都市計画、地域計画においても気候変動への適応は喫緊の課題と言えるが、現状我が国の都市では気候変動の影響を考慮した土地利用、開発行為等に関する具体的な適応指針は示されていない。そこで、本研究では国内主要都市(横浜、広島)の市街地を対象に、気候変動適応を目的とした空間計画ガイドラインを作成する。この空間計画ガイドラインは街区毎の類型区分を行い、2050年を目途とした各類型の改善メニューを示す。本研究には気温、風速等の実測調査と数値シミュレーションから得た気候データ、土地利用、建物、インフラ等の物的データ、人口、交通、経済、既存計画等の社会的データの大きく分けて3種類のデータを用いる。日本の都市気候に関する多くの既往研究は上記の気候データと物的データの関係を明らかにするものであった。本研究ではガイドライン作成を目的とするため、社会的データを用いる必要があると考える。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				2

2.20. 都市変容の時空間分析：明治期からの青山都市領域の事例研究

共同研究番号	943			
研究開始日	2019-12-04			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	岡部篤行			
研究代表者所属	東京大学 空間情報科学研究センター			
研究題目	都市変容の時空間分析：明治期からの青山都市領域の事例研究			
研究概要	<p>本研究は、明治期からの都市化現象が顕著にみられる青山都市領域を対象に、都市変容現象を建築・街区・渋谷区・東京都の多面的スケールから分析を行うものである。研究の内容は、以下の通りである。第1に、建築・街区スケールでのGISフィールド調査法開発と、それを利用した調査、第2に、明治期から現在までの青山都市領域の建築・都市近代現代史、第3に、住形式の近代的変容過程の解明と、その類型化、第4に、店舗の都市集積現象を分析する統計的手法の開発と、その適用、第5に、店舗の発生・消滅を分析する時空間分析手法の開発と、その適用、第6に、建物利用地の拡大・縮小の時空間分析手法の開発と、その適用。研究の遂行は、青山都市領域の研究を行ってきた建築・都市史の研究者（伊藤毅、小島見和）、時空間分析の研究者（岡部篤行）、GISの研究者（岡部佳世）と、イリノイ大学の地理情報科学と社会・空間・環境学の研究者（Mei-Po Kwan, Sara McLafferty, 森岡渉）の共同体制で行う。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				3

2.21. 都市住人の消費アクセスの定量化：数量空間経済学アプローチ

共同研究番号	954			
研究開始日	2020-01-28			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	中島 賢太郎			
研究代表者所属	一橋大学 イノベーション研究センター			
研究題目	都市住人の消費アクセスの定量化：数量空間経済学アプローチ			
研究概要	<p>都市・居住環境の向上を議論する上で、その根本となる、都市住人の居住地に関する意志決定のあり方を理解することが必要である。このような問題に対し、伝統的に都市経済学は、就業地からの近接性に注目した住人の意志決定モデルを採用してきた。しかしながら、都市は居住と就労をつなげることだけではなく、多様なアメニティを提供することにも重要な機能を果たす(例:ショッピング、レストラン、公園、友人との関係性など)。一方で、居住と就労以外の社会・経済活動に関する包括的なデータの欠落から、就労以外の都市のメリットに関する実証的な分析はいまだ進んでいない。特に近年、住民が都市から享受するメリットを計測する上で、都市内住人の勤務地および居住地選択を基礎としたモデルによる定量的なアプローチが注目をあつめている(Ahlfeldt, Redding, Sturm, Wolf, 2015)。本研究の目的は、パーソントリップ調査等の人の移動データを活用し、ショッピング等、都市内の人々の多様な移動行動需要を実証的に把握・モデル化することである。本研究では、元来居住就労だけに着目してきた都市経済学のモデルに対し、様々な種類の移動行動を取り入れる新しいモデルを提案し、都市政策(交通インフラ、ゾーニング等)の経済厚生評価を行う。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	○	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				5

2.22. Simulation mobile data for validation the reliability of estimation results from trajectory data

共同研究番号	956			
研究開始日	2020-02-10			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	柴崎 真理子			
研究代表者所属	東京大学 空間情報科学研究センター			
研究題目	Simulation mobile data for validation the reliability of estimation results from trajectory data			
研究概要	<p>Mobile phone などのビッグデータ活用が社会調査に及んでおり、国勢調査の項目の推定や関連性に関する既往研究は数多くある。しかしながら、これらの属性に関する推定や予測においてどれほどの信頼性を有しているか、また収集期間や分布、収集方法の違いがどれほどの影響を及ぼしているのか定量的に評価されていない。本研究はビッグデータの社会調査などに応用することを目的として、啾啾期間や収集方法などのデータ属性が移動推定や属性推定にどれほどの影響を与えているのか、定量的にシミュレーションによって比較研究する。この研究成果は、ビッグデータの社会的な調査の補完およびコスト削減を可能とし、主に開発途上国における社会調査への貢献を想定している。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	○
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				1



2.23. 集約型都市構造の形成のための都市施設利用における利便性評価の日韓比較研究

共同研究番号	963			
研究開始日	2020-03-24			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	蕙丞 宋			
研究代表者所属	ソウル研究院			
研究題目	集約型都市構造の形成のための都市施設利用における利便性評価の日韓比較研究			
研究概要	<p>近年、様々な都市では、人口減少と高齢化、地球レベルの環境問題に対応しながら、住民の生活の質が担保できる空間構造を構築していくことが重要な課題となっている。その中で重要な要素としては、住民の施設への利便性を確保することであり、そのために施設の再配置、公共交通網の再編などが行われている。そのためには、住民の利便性の評価と施設集約や公共交通の再編を同時に議論する必要がある。そこで、本研究では、韓国と日本の都市を対象とし、複数の施設を利用する観点から利便性を評価し、都市計画の中でどのように対応しているかを明らかにするところを目的とする。それにより、利便性を考慮しながら、集約型都市の実現に向けた都市構造の再編や制度設計における基礎的知見を得ることが期待できる。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
	2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-
データセット利用数				1

## 2.24. Impact evaluation of infrastructure projects using remote sensing and spatial trade model

共同研究番号	970			
研究開始日	2020-05-08			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	能勢 学			
研究代表者所属	国際通貨基金			
研究題目	Impact evaluation of infrastructure projects using remote sensing and spatial trade model			
研究概要	<p>The construction and upgrade of the interregional transport network have significantly improved connectivity and increased bilateral trade and population movement in Asian countries. However, little empirical evidence exists to understand how the large-scale infrastructure investments changed the system of cities among China and ASEAN countries. In this context, this study's objectives are to (a) analyze the pattern of urban sprawl and land use near the major transport network and (b) quantify welfare gains through bilateral trades (Ricardian effect) and labor reallocations. We plan to evaluate the spatial and economic impacts of the highway, railway, or airport construction across the Greater Mekong Subregion or in ASEAN nations. In combination with economics empirical models, the analysis plans to utilize big data which help us visualize and quantify the development impact of infrastructure investments in rural areas which suffer lack of data. In this regard, we apply image processing technique to satellite images and use data from the people flow projects to measure urban congestions and to track the people flow. The data will allow us to develop measurements of market access and trade costs.</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	○
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	○
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	○
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	○
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	○
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	○
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	○
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	○
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	○
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	○	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	○	
データセット利用数				11

## 2.25. A Study on Private Proximity Query

共同研究番号	974			
研究開始日	2020-06-26			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	曹 洋			
研究代表者所属	京都大学			
研究題目	A Study on Private Proximity Query			
研究概要	<p>本研究では、空間的な近接クエリをプライバシー保護の方法で回答する方法を研究している。近接問い合わせの例としては、"is Alice close to Bob?"というものがある。我々は、アリスとボブが個人的な位置情報を公開せずに結果を導き出すことができると仮定する。我々は、この問題に対して、差分プライバシー、安全なハードウェア、複数の当事者による計算を含む、多様なプライバシー強化技術を調査することを試みる。ここでの重要な課題の一つは、時空間データの設定において、位置情報のプライバシーのためのメトリクスをどのように定義するかということである。このことは、従来のプライベート集合の交点(PSI)に関する研究と比較して、この問題がユニークなものであることを示している。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	○	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	○	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	○	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	○
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	○
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	○
	2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	○
データセット利用数				11

2.26. 人流データを用いたコミュニティ検出手法の研究

共同研究番号	1005			
研究開始日	2020-11-14			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	藤原 直哉			
研究代表者所属	東北大学大学院情報科学研究科			
研究題目	人流データを用いたコミュニティ検出手法の研究			
研究概要	<p>近年、ネットワークのコミュニティ検出手法の研究が盛んにおこなわれている。代表者らは、先行研究において、地域間の人流をネットワークに見立て、コミュニティ検出手法を適用することで、地域的に連結したコミュニティ構造が得られることを明らかにした。本研究では、状況に応じた適切なコミュニティ検出手法について、人流データを用いて検討を行う。具体的な検討事項としては、状況に応じた流動量の集計方法の検討、これらの集計方法やコミュニティ検出手法に対する結果の依存性などである。コミュニティ検出手法は教師なし学習であるために、結果の妥当性の検証は一般に困難であるが、本研究では、感染症の拡大傾向などのデータやシミュレーション結果を用いて、検証を行う。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				2

2.27. 「観測ビッグデータ同化」による大地震時のリアルタイム避難者分布推定技術の開発に関する研究

共同研究番号	1013			
研究開始日	2020-11-26			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	小川 芳樹			
研究代表者所属	東京大学空間情報科学研究センター			
研究題目	「観測ビッグデータ同化」による大地震時のリアルタイム避難者分布推定技術の開発に関する研究			
研究概要	<p>本研究では、災害直後の人の流動予測を AI とデータ同化を組み合わせで行う。まず、大地震時の物的被害や避難者一人ひとりの行動を記述する精緻な都市内広域避難シミュレーションに基づく、グラフベースの AI 行動モデルの構築手法を開発する。次に、観測ビッグデータ(大規模携帯電話 GPS データや被害情報)を用いたデータ同化により、AI 行動モデルに基づく予測結果を補正し、リアルタイムに避難者分布を推定する手法を開発する。AI 行動モデルでは、GNN を用いて道路ネットワークをグラフとして取り扱うことで推定精度の高いモデルを目指す。さらに、実際の観測データに適用し本手法の有用性を示すとともに、観測時間間隔やシミュレーションの計算時間間隔が、リアルタイム性や推定精度に及ぼす影響も明らかにする。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	○
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
	2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-
データセット利用数				3

## 2.28. 遅延耐性ネットワークに基づく学習支援システムに関する研究

共同研究番号	1014			
研究開始日	2020-11-25			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	木實新一			
研究代表者所属	九州大学			
研究題目	遅延耐性ネットワークに基づく学習支援システムに関する研究			
研究概要	<p>各国で ICT やデータを活用した学習環境が普及しつつあるが、インターネットやモバイルブロードバンドの利用が低い水準に留まっている開発途上国においては、多くの学習者にとってこうした環境にアクセスすることは容易でない。本研究では、東アフリカの開発途上国を対象に、情報通信インフラの整備が限定的であっても学習コンテンツ・データ・サービスを流通させることのできる技術を開発するために、人流データを用いた予備的な分析を行う。具体的には、ナイロビとマプトの人流データの可視化を行い、DTN(Delay-Tolerant Networking)に基づく学習データ・コンテンツ流通システムのデザインスペースを分析する。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	○
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	○
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
	2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-
データセット利用数				2

2.29. 地方都市における地域包摂型まちづくりの活動による空間変容への評価に関する研究

共同研究番号	1025			
研究開始日	2020-12-01			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	蕭 耕偉郎			
研究代表者所属	九州大学大学院 人間環境学研究院			
研究題目	地方都市における地域包摂型まちづくりの活動による空間変容への評価に関する研究			
研究概要	<p>少子高齢化によって地域の経営、自治体の行財政などの深刻化が進む地方都市に着目して、衰退する地域の活性化と住民同士の地域生活での支え合いを推進するまちづくりが重要な課題となっている。「地域自主組織」や「まちづくり」は、これまでは建築社会システム、都市計画、社会学などの視点に基づく先行研究が多い中、本研究では、「地域包摂型まちづくり」という新たな概念を打ち出し、さらに建築社会システム、都市計画に加え、農村計画、環境工学、情報システム技術、地球環境などの分野横断的な研究体制から、より客観的・多面的にまちづくりの成果を評価することを目的とする。特に社会的排除とそれに対応するための地域包摂型の活動に着目し、安全からの排除(地域の治安、防災)、移動からの排除(アクセス)、健康福祉社会保障からの排除(医療福祉介護、地域包括ケア)、就業からの排除(地域経済)、教育からの排除(教育施設、保育環境)、文化、地域活動からの排除(祭礼、地域イベント、コミュニティ)の観点から評価を行うことが本研究の特徴である。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				4

2.30. 都市構造モデルに基づいた COVID-19 感染拡大シミュレーションに関する研究

共同研究番号	1027			
研究開始日	2020-12-03			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	佐藤 栄治			
研究代表者所属	宇都宮大学 地域デザイン科学部			
研究題目	都市構造モデルに基づいた COVID-19 感染拡大シミュレーションに関する研究			
研究概要	<p>新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は新興感染症であるゆえ、未だ知られていないことが多々ある。このような状況下では感染リスク回避行動が重要な手段であり、感染リスク回避行動を支援する情報が重要である。例えば、地理空間上での感染リスク地域の可視化、移動制限などの感染対策の実施効果のシミュレーションの見える化などが挙げられる。本研究では、都市構造と人・物の流れを加味した都市モデル設計し、感染症が発生した際の感染リスク拡大についてのシミュレーションをマルチエージェントやセル・オートマトン等の手法を用いて行うことで地域的な感染集積リスクや感染到達時間を解析する。また解析結果を地理空間上で可視化し、感染リスク回避行動を支援するツールを開発すること目的とする。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	○	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				4



2.31. 強化学習に基づく人の流れのシミュレーションのためのエージェントモデルの構築とその応用

共同研究番号	1033			
研究開始日	2020-12-05			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	龐岩博			
研究代表者所属	東京大学 生産技術研究所			
研究題目	強化学習に基づく人の流れのシミュレーションのためのエージェントモデルの構築とその応用			
研究概要	<p>Understanding individual and crowd dynamics in urban environments are critical for numerous applications, such as urban planning, traffic forecasting, and location-based services. However, researchers have developed travel demand models to accomplish this task with active self-reported data or probe data which are very expensive and often in limited volume. In contrast, emerging data collection methods have enabled researchers to leverage machine learning techniques with a tremendous amount of passively collected mobility data for analyzing and forecasting people's behaviors. In this study, we plan to develop a reinforcement learning-based approach for modeling and simulation of daily population movement using the Person Trip Survey data. Unlike traditional travel demand modeling approaches, our method focuses on the problem of inferring the spatio-temporal preferences of individuals from the observed trajectories and is based on inverse reinforcement learning (IRL) techniques. We apply the model to the Tokyo area and attempt to replicate a large amount of the population's daily movement by incorporating with agent-based multi-modal traffic simulation technologies.</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-	
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数	1			

2.32. Twitter データを用いた建築・都市における混雑度推定に関する研究

共同研究番号	1040			
研究開始日	2020-12-12			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	沖 拓弥			
研究代表者所属	東京工業大学 環境・社会理工学院			
研究題目	Twitter データを用いた建築・都市における混雑度推定に関する研究			
研究概要	<p>群集による局所的・突発的な混雑が、どこでどの程度発生しているかを早期に(あるいは事前に)把握し対応することは、群集事故防止の観点から重要な課題である。しかし、施設・道路単位での混雑度をリアルタイムで把握可能なデータは存在しない。そこで本研究では、即時性・公開性に優れる Twitter データに着目し、機械学習をベースとした自然言語処理技術を用いて、局所的・突発的な群集混雑の発生をどの程度の精度で検出できるか検討を行う。具体的には、東日本大震災をはじめとする自然災害時や異常気象時などにおける混雑状況に関する Twitter データを用いて、時刻情報や固有名詞・地名、混雑度を表す言語表現、投稿画像などを手がかりとして、混雑状況の時間推移や空間分布を把握する技術を開発する。あわせて、混雑や混乱が人々にどのような印象を与え、行動にどのように影響するかを分析し、混雑や混乱に対する反応(言語表現・行動選択)に見られる個人差や地域差、性別や年齢ごとの傾向を明らかにする。本研究の成果を用いることで、混雑度の迅速な把握が可能となるだけでなく、正確な GPS 位置情報が得られない施設(駅や避難場所、帰宅困難者支援施設等)内や地下空間などの混雑度推定も可能となることが期待される。さらに、混雑・混乱を考慮した防災・減災計画の策定や、混雑時の人間行動の予測精度向上等の面で波及効果が期待される。</p>			
データセット利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
	2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-
データセット利用数				2

## 2.33. 保育所選択行動モデルの構築とその応用に関する研究

共同研究番号	1041			
研究開始日	2020-12-12			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	沖 拓弥			
研究代表者所属	東京工業大学 環境・社会理工学院			
研究題目	保育所選択行動モデルの構築とその応用に関する研究			
研究概要	<p>地域の保育施設計画を評価する上で、各保育所の入所状況だけでなく、保育所利用者の施設選択行動特性を考慮することは重要である。本研究では、まず、自治体が公開する保育所入所状況データや国勢調査データなどをもとに、ハフモデルと積乗型競合相互作用モデルを用いて、保育所の施設属性や立地などを考慮した保育所選択行動モデル(以下、モデル)を構築する。次に、神奈川県横浜市および東京都足立区を例に、モデルで推定した入所希望者数と実際の入所状況を比較し、モデルの精度を検証する。さらに、構築したモデルを、保育所利用者の施設選択の観点に基づく地域の保育施設計画評価、保育需要の将来予測、保護者への保育施設推薦システム等へと応用し、本モデルの有用性を示す。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
	2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-
データセット利用数				1

2.34. 木造住宅密集地域の魅力分析に関する研究

共同研究番号	1042			
研究開始日	2020-12-12			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	沖 拓弥			
研究代表者所属	東京工業大学 環境・社会理工学院			
研究題目	木造住宅密集地域の魅力分析に関する研究			
研究概要	<p>木造住宅密集地域(以下、木密地域)は、防災上の課題の早急な解消が必要である一方で、地域特有の魅力がどこにあり、それをいかに維持していくかを検討することも重要である。本研究では、被験者アンケートや SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)、360 度パノラマ画像、視線計測などの多様なソースから得られるデータを用いて、木密地域のもつ魅力の特性を多角的に分析することを目的とする。具体的には、まず、Google Street View(以下、GSV)から得られる木密地域の街路画像を用いた印象評価アンケートを実施し、被験者の印象評価構造や地域の特徴量との関係を分析する。次に、SNS の一つである Flickr を例に、木密地域で撮影された画像やデータ、対象地域の特徴をもとに、SNS に投稿されやすい画像の特徴を考察する。あわせて、印象評価結果と被験者の注視傾向の関係を分析するとともに、注視点や評価構造が、人間と AI でどのように異なるかを検証する。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				1

2.35. オープンな統計データを用いた骨格的人流データの作成

共同研究番号	1046			
研究開始日	2020-12-05			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	樫山 武浩			
研究代表者所属	東京大学生産技術研究所			
研究題目	オープンな統計データを用いた骨格的人流データの作成			
研究概要	<p>Understanding people's movement is important in urban planning, commercial development, and disaster management. However, there is no high-quality person flow data covering rural areas and is available to everyone. Mobile carriers monopolize mobile phone data, such as GPS and base station logs. In addition, due to privacy issues, it is impossible to obtain disaggregated people flow data easily. Therefore, we aim to develop nationwide synthetic people flow data based on public statistical data such as the national census and economic census. In this research, we attempt to develop a prototype data of synthetic people flow data in Toyama and Shizuoka prefectures and evaluate the result by comparing with various types of observation data such as mobile data and statistical data.</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	○	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	○
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				2

2.36. Quantification of Urban Policy in Developing Cities: Commuting, Land development and Externalities in a City

共同研究番号	1048			
研究開始日	2020-12-18			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	ダニエル スターム			
研究代表者所属	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス			
研究題目	Quantification of Urban Policy in Developing Cities: Commuting, Land development and Externalities in a City			
研究概要	<p>In this project, we are calibrating a modern quantitative model of location choices in cities to analyze cities in developing countries. Such quantitative models have so far mainly been used to study cities in developed countries. In this project, we will use the much sparser data available for typical developing country cities to identify the parameters of such a model. In particular, we will work with data on the distribution of population and employment across districts of Dhaka, Nairobi and Cairo. To examine how well the model is able to capture the rich level of economic activity in these cities, it would be extremely valuable to compare the predictions of the model to the survey data on commuting choices that have been collected. The model makes predictions for the number of people commuting from each location in the city to each other location for work and these predictions can be directly compared to the available survey data to see how well the model performs.</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	○
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	○
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	○
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数	3			

2.37. 多様なビッグデータを用いた都市空間容量の分析に関する基礎的研究

共同研究番号	1068			
研究開始日	2021-01-09			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	今井 龍一			
研究代表者所属	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科			
研究題目	多様なビッグデータを用いた都市空間容量の分析に関する基礎的研究			
研究概要	<p>都市はそれぞれ大きさ、成り立ち、近隣都市圏との距離、交通網の発達度合いや輸送可能量等、様々な特性を持っており、全く同じ特性を持つ都市は存在しない。また、このような特性によって、各都市での居住人口および流入人口には一定の容量があると言え、それを超えると極端な過密や、オーバーツーリズムに繋がる。現在、COVID-19 の流行下において、各都市を取り巻く状況も大きく変化してきている。我が国では内閣府の主導により、複数の携帯電話事業者が提供する、市街地等における平常時と比較した人出の増減率等のデータを一般に公開している。そのため、各都市における COVID-19 流行以前と流行以降の人流の把握が可能となっている。このように、ビッグデータを用いることで、都市における人々の動きを長期に渡って把握できる。さらに、複数のデータセットを組み合わせることにより、詳細な実態の把握が可能になると考えられる。そこで、本研究は、多様なビッグデータを用いて、各都市の機能に応じた滞在人口の容量と COVID-19 下においてソーシャルディスタンスを保つことのできる滞在人口の容量の定量的な分析を試みる。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	○	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				2

2.38. 深層学習による歩行者流動調査に関する基礎的研究

共同研究番号	1069			
研究開始日	2021-01-09			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	今井 龍一			
研究代表者所属	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科			
研究題目	深層学習による歩行者流動調査に関する基礎的研究			
研究概要	<p>現在、我が国の歩行者の交通調査は、人海戦術による方法で交通量を実施している。そのため、人為的ミスによる誤計上、屋外の長時間計測による熱中症や日射病の危険性など、解決すべき課題が山積している。近年、高解像度な動画を撮影できる機器が廉価になり、さらに、深層学習による画像処理技術も劇的に向上している。そこで、本研究は、動画をを用いた深層学習による歩行者の交通量調査に基づく動体追跡の交通流動学習モデルの実現可能性を検証する。交通流動を可視化することにより、空間的価値が高いエリアや人物流動のボトルネックを定量的に評価することが可能となる。さらに、近年、交通流動を把握する手法として、携帯電話基地局の運用データ等の交通ビッグデータの有用性が注目されている。全域的解析が期待されている交通ビッグデータと、局所的解析の実現可能性がある本研究とを組み合わせることで、将来的には地域一体を網羅した交通流動学習モデルの実現を試みる。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				3



2.39. 多様な交通ビッグデータの高度利用に関する基礎的研究

共同研究番号	1074			
研究開始日	2021-01-09			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	今井 龍一			
研究代表者所属	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科			
研究題目	多様な交通ビッグデータの高度利用に関する基礎的研究			
研究概要	<p>現在、都市の交通流動の把握には、パーソントリップ調査や道路交通センサス等の統計調査が用いられているが、多大な費用や時間を要するため更新頻度や空間解像度に課題を抱えている。そこで近年、24時間365日データを取得可能な携帯電話基地局の運用データや携帯電話の位置情報データ等の交通ビッグデータが注目されている。従来の統計調査に加え、鮮度、量や空間解像度に優れた交通ビッグデータを用いて、様々な用途に応じた空間解像度で交通流動を把握することで、より実態に即した都市計画の策定に寄与できると考えられる。本研究の目的は、低コストでより詳細な都市のモニタリング指標として交通ビッグデータを活用し、様々な空間解像度に応じた交通流動分析を考案・体系化することとした。様々な交通ビッグデータと既存調査とを組み合わせ、新しい交通ビッグデータの活用方法を考案する。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				4

2.40. デジタルアースを用いた新型コロナウイルス感染症対策に関する研究

共同研究番号	1076			
研究開始日	2021-01-16			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	安本 晋也			
研究代表者所属	中部大学 中部高等学術研究所			
研究題目	デジタルアースを用いた新型コロナウイルス感染症対策に関する研究			
研究概要	<p>中部大学 中部高等学術研究所 国際 GIS センターでは、GIS やリモートセンシングなどの空間情報技術を用いてサイバースペース上に構築した多次元・多解像度の地球「デジタルアース」の研究を推進してきた。感染症は多数の要因が複雑に絡み合う問題複合体であり、デジタルアースによるアプローチはこうした問題の解題に役立つことが期待される。本研究では新型コロナウイルス(COVID-19)を対象に、感染者数の時空間ダイナミクスを観測データから抽出することを目的とする。近年の感染症の数理モデルの多くは空間分布の推移を考慮していないため、地域に応じた対策を考えることが困難な状況となっている。本研究では、感染者数の空間分布情報について解析を行い、地域ごとの特徴を抽出する。その上で、数理モデリングを用いて地域に応じた感染症対策を検討する。得られた特徴の情報はデジタルアース上に公開し、広く社会に貢献するよう努める。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	○
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	○
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	○
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	○
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	○
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	○
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				9

2.41. 国際共同研究による持続可能な都市発展モデルの構築—都市発展と縮退需要を両立する都市像の実現を目指して—

b 共同研究番号	1079			
研究開始日	2021-02-01			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	久保倫子			
研究代表者所属	筑波大学生命環境系			
研究題目	国際共同研究による持続可能な都市発展モデルの構築—都市発展と縮退需要を両立する都市像の実現を目指して—			
研究概要	<p>都市の競争力を維持しながらも居住者が高い QOL を享受することができるような大都市圏の実現は、先進国の都市に共通する目標であり、各都市で多様な取組みがなされているものの両者を融合し両立させることは容易ではない。なかでも日本の大都市圏は低成長経済や急速な人口高齢化を背景に、都市の競争力も住民の QOL も低下している。日本都市に求められるのは、これら諸課題に対する根本的な対応であり、それには、成長志向から縮退受容という大きな価値観の転換が求められる。これにより、人間居住の場として都市を再構築することが、本研究の創出する新たな価値である。つまり、都心の国際競争力を維持しながらも、郊外や地方都市においては高い生活の質を維持して住み続けられる都市環境の実現を目指すことは、都市の持続的発展に繋がる未来志向の新たな価値であると考えた。そこで本研究では、積極的な都市ガバナンスにより競争力を高めている北米都市(シカゴ・トロント)および経済発展よりも高齢者の生活環境の向上に力を入れるオランダの都市を対象に、現地研究者との共同実地研究を実施し、東京大都市圏に援用可能な持続的大都市圏モデルの構築を目指す。海外成果との比較のため、東京大都市圏における都市環境、特に居住環境の実態に関する空間分析を行うほか、政策や制度面に関する調査を実施する。一連の成果を踏まえて日本の都市へ応用可能な仕組みを提示する。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数	3			

2.42. 東京都区部における多心型都市構造の評価に関する研究

共同研究番号	1083			
研究開始日	2021-02-24			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	出口 敦			
研究代表者所属	東京大学 大学院新領域創成科学研究科			
研究題目	東京都区部における多心型都市構造の評価に関する研究			
研究概要	<p>テクノロジーの進化やグローバル化の進展とともに変化の速度が増し、地球規模の災害など不確実性が増す社会の中、来るべき変化を予測し、既存のストックを有効に活用・再生しながら、「暮らし続けられるまち」、そして時間とともに価値を高める「経年優化する都市」をつくるための方法論構築が求められている。そこで、本研究では、都市のレジリエンスや暮らしの選択性・自由度を高めるうえで、東京都市圏の生活拠点の多様性に注目する。具体的には、買い物、遊興・交友、通院など、日常生活の中の様々な活動が行われる生活拠点について、性別や年齢層の構成、誘致圏など、曜日や時間帯別の混雑などの来街者・来街行動の特性と、土地利用・用途混合、業種構成などの都市空間特性との関連性を概観し、様々な生活拠点に共通する要素と、来街者特性によりいわばカスタマイズされる要素とを見出したい。本共同研究プロジェクトでは複数時点の東京都市圏「人の流れ」データを用い、上記の来街者特性を詳細に分析する。また、人の流れデータと土地利用データ双方について複数時点のデータを用いて、都市空間特性と来街者特性の時系列的な変化から時間軸を踏まえた両者の関係性を抽出することを試みる。以上により、東京都市圏の経年優化を実現するために都市計画的手法を用いてどのような特性の都市空間を整備、創出することが望ましいかを議論する。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				5

2.43. 人口統計データを使った様々な交通手段の移動需要予測と再配置最適化

共同研究番号	1091			
研究開始日	2021-04-10			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	関本義秀			
研究代表者所属	東京大学空間情報科学研究センター			
研究題目	人口統計データを使った様々な交通手段の移動需要予測と再配置最適化			
研究概要	<p>近年、人々の交通に対する要求は多様化し、鉄道などの従来型の交通手段だけではなく、オンデマンド交通やシェアリング交通などの新たな交通手段の活用が増加している。これらの交通手段では、鉄道交通などのように決められた区間の移動を提供するだけではなく、短い距離を自由な経路で移動できるため、都市空間をより便利に利用できるようになった。このような新たな交通手段を最大限活用するためには、事前に移動需要を予測し適切な量の移動手段を供給する必要がある、その実現のために交通配車や再配置が行われる。しかしながら、これまで配車・再配置は人のノウハウによって計画されることが多く、必ずしも最適ではない場合が多い。本研究では、モバイルネットワークの仕組みを利用することで、リアルタイムの人の移動需要を示す人口統計データを作成し、交通手段別需要予測を行う。また、推定された需要に基づき、交通リソースの利用効率を最大化するための交通再配置アルゴリズム/システム設計を行う。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				1

## 2.44. Understanding Welfare Differences across Cities in the World

共同研究番号	1137			
研究開始日	2021-11-21			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	宮内 悠平			
研究代表者所属	ボストン大学 経済学部			
研究題目	Understanding Welfare Differences across Cities in the World			
研究概要	<p>This project studies how peoples' welfare varies across cities under different stages of development. Using travel surveys worldwide, we document how the spatial patterns of residents' commuting and non-commuting travel and the time-use patterns of labor supply and amenity consumption differ across cities and time periods. We then develop a theoretical framework of spatial labor supply and amenity consumption decisions within a city. Our theoretical framework maps the observed cross-city patterns of urban travel and time-use decisions to key structural city-specific parameters such as the cost of travel, the formality of employment, and the attractiveness of market-provided amenities. Finally, we use our theoretical framework to back out residents' welfare for each city and quantitatively assess what margins affect the residents' welfare differences.</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	○
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	○
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	○	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	○	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	○
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	○
	1997 高知	○	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	○	2016 東駿河湾(空間配分)	○
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	○
	2007 金沢	○	2002 ジャカルタ	○
	2007 西遠	○	2004 ハノイ	○
	1994 岡山県南	○	2009 ダッカ	○
	2005 秋田(秋期)	○	2012 マプト(空間配分)	○
	2006 郡山	○	2001 カイロ(空間配分)	○
	2001 宮崎	○	2010 ラホール(空間配分)	○
	2001 静岡中部	○	2013 ナイロビ(空間配分)	○
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	○
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	○	
2000 京阪神(空間配分)	○	2012 プノンペン(空間配分)	○	
データセット利用数				35

2.45. 大規模人流データを用いた時空間内挿技術の開発

共同研究番号	1148			
研究開始日	2022-02-04			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	藤原 直哉			
研究代表者所属	東北大学大学院情報科学研究科			
研究題目	大規模人流データを用いた時空間内挿技術の開発			
研究概要	<p>GPS などの大規模な人流データを扱う上で、トリップ、移動経路、交通モードなどの推定を精度よく行い時空間内挿をする技術が不可欠である。また、これらの情報に関する正解があるデータに対して手法を適用することで、推定の精度を検証することが重要である。本研究では、大規模な人流データから時空間内挿を行う新たな手法を開発し、トリップの詳細な情報が判明している人の流れデータから擬似的に GPS のようなデータ点列を生成し、提案手法の推定精度を確認するとともに、推定に失敗する状況を明らかにするなど、手法の改良を行い、精度向上を目指す。本研究の完成により、人流の時空間内挿手法の評価手法を確立するとともに、推定の精度向上が期待される。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	○
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	○
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				3

## 2.46. 歩行者交通流における属性抽出に関する基礎的研究

共同研究番号	1158			
研究開始日	2022-04-02			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	今井 龍一			
研究代表者所属	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科			
研究題目	歩行者交通流における属性抽出に関する基礎的研究			
研究概要	<p>現在、我が国の歩行者交通量調査の多くは、現地調査により実施されており、目視で判定可能な通過した歩行者の方向別人数や年代等が調査項目とされている。また、調査日および時間帯により生じる通行量の偏りや屋外での長時間労働等、課題が山積している。これらの課題を解決するために、深層学習を用いて動画像から歩行者を計数する手法が注目されている。一例として、既存研究では、物体検出技術を用いて高精度に人物認識が可能であることが明らかになっている。しかし、歩行者の属性や速度まで取得している技術は見当たらない。そこで、本研究の目的は、歩行者交通流の分析の高度化を図るため、動画像を用いて歩行者属性の抽出手法を考案することとした。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				1



2.47. 動画像を用いた群衆計数に関する基礎的研究

共同研究番号	1159			
研究開始日	2022-04-02			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	今井 龍一			
研究代表者所属	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科			
研究題目	動画像を用いた群衆計数に関する基礎的研究			
研究概要	<p>近年、事件・事故の決定的な証拠になり、犯罪抑止力の効果もあることから、東京都を始めとした自治体において犯罪防止のための条例に「防犯カメラの設置」が盛り込まれた。これにより、多くの公共施設や商業施設、住宅等で防犯カメラの設置が進んでいる。他方で、犯罪の監視に活用するだけでなく、防犯カメラに写る人数を計数することは、イベントの安全な運営や定量的な集客効果の把握に寄与することから非常に重要な取り組みになる。特に、群衆を起因とする事故は毎年のように世界中から報告されており、社会問題の1つであるといえる。しかし、現在は防犯カメラの映像の監視を人手に頼っているため、群衆の状態を定量的に把握することは困難である。さらに、群衆の混雑状況の判断は個人の定性的な感覚に頼っており、データを用いた定量的な判断ができていないという課題もある。そこで、本研究では、防犯カメラの映像に画像解析技術を適用することで、群衆の人数や状態を定量的に取得できると考えた。取得したデータだけでなく、方向や属性などの様々なデータと連携させることによって、群衆データを用いた新たな価値の創造が可能になる。群衆の数をより正確に計測する技術の開発を目指すと共に、安全管理やマーケティング、エリアマネジメント等の幅広い分野における群衆データの活用を目標に取り組んでいる。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	○
	2006 沖縄本島中南部	○	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				2

2.48. 移動履歴データに基づく地域分類手法の開発

共同研究番号	1184			
研究開始日	2022-07-15			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	井上 亮			
研究代表者所属	東北大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻			
研究題目	移動履歴データに基づく地域分類手法の開発			
研究概要	<p>郊外から都心への通勤通学に伴う移動や都心部での業務・私事による移動など、都市圏で日常的に発生する人々の移動は、都市圏で行われる社会経済活動を構成する主要な要素の一つである。社会経済活動の中心地である都心の把握やそれらの活動が活発に行われる地理的な範囲を明らかにする機能地域の抽出など、移動履歴データに基づく地域分析手法について長らく議論されてきた。本研究では、自然言語処理手法を応用した移動系列データの解析を検討する。個人の一連のトリップ系列を入力データとし、各トリップの発着地域の特徴を抽出する分析手法の構築を目指す。本共同研究で申請する人流データへの適用を通して構築した分析手法の実行可能性や有効性を検証する</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	○	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				2

2.49. GPS データと都市開発をつなぐプロジェクト

共同研究番号	1187			
研究開始日	2022-07-09			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	今井 龍一			
研究代表者所属	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科			
研究題目	GPS データと都市開発をつなぐプロジェクト			
研究概要	<p>我が国における国土と都市の発展は、100年以上にわたり鉄道建設を基軸として進行してきた。しかし、2020年以降、COVID-19の流行によって、都市における人の流れが大きく変化した。それに伴い、建物および建物に入居している都市施設にも変化が生じている。そこで、本研究では、COVID-19以前からの人々の流動データと、建物やそこに入居している都市施設の変化等を重ねることで、まちの変化を視覚化する。具体的には、交通施設の開発・改善(TransitOrientedDevelopment)と一体となった都市開発を対象とし、GPS データ、土地価格・賃料水準、住宅地図、POI データの時系列変化に着目して多面的に分析する。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				2

2.50. 子育て世帯の居住動向と生活行動の解明

共同研究番号	1199			
研究開始日	2022-08-31			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	佐藤 将			
研究代表者所属	早稲田大学 人間科学学術院			
研究題目	子育て世帯の居住動向と生活行動の解明			
研究概要	<p>政府はこれまで保育所の増設や育児休業制度の拡充を行ってきており、2015年に施行された子ども・子育て支援新制度では認定こども園や小規模保育園等の子どもの保育利用の充実化を行ってきた。また従来から育休利用が少なかった男性に向けて2022年4月に施工された改正育児・介護休業法によって育休取得の向上を図る政策を行っている。一方でこうした政策に対しての利用者側の影響についての検証事例は少なかった。そこで本研究では子育て世帯の日常的な生活行動に着目して、子育て世帯の仕事と子育ての両立可能性にどの程度の影響を及ぼしているのかを分析する。この分析を通して、これまで行われてきた子育て支援策の評価と今後行うべき支援策の方向性を提示することを目的とする。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				1

## 2.51. 子育て世帯の居住動向と生活行動の解明

共同研究番号	1200			
研究開始日	2022-08-31			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	佐藤 将			
研究代表者所属	早稲田大学 人間科学学術院			
研究題目	子育て世帯の居住動向と生活行動の解明			
研究概要	<p>政府はこれまで保育所の増設や育児休業制度の拡充を行ってきており、2015年に施行された子ども・子育て支援新制度では認定こども園や小規模保育園等の子どもの保育利用の充実化を行ってきた。また従来から育休利用が少なかった男性に向けて2022年5月に施工された改正育児・介護休業法によって育休取得の向上を図る政策を行っている。一方でこうした政策に対しての利用者側の影響についての検証事例は少なかった。そこで本研究では子育て世帯の日常的な生活行動に着目して、子育て世帯の仕事と子育ての両立可能性にどの程度の影響を及ぼしているのかを分析する。この分析を通して、これまで行われてきた子育て支援策の評価と今後行うべき支援策の方向性を提示することを目的とする。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	-	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-	
2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				1

2.52. 「アルミニウム素材高度資源循環システム構築事業」「資源循環型社会構築に向けたアルミニウム資源のアップグレードリサイクル技術開発」

共同研究番号	1209			
研究開始日	2022-11-21			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	河尻理恵子			
研究代表者所属	株式会社エイゾス			
研究題目	「アルミニウム素材高度資源循環システム構築事業」「資源循環型社会構築に向けたアルミニウム資源のアップグレードリサイクル技術開発」			
研究概要	<p>国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、NEDO)の「アルミニウム素材高度資源循環システム構築事業」「資源循環型社会構築に向けたアルミニウム資源のアップグレードリサイクル技術開発」において、空間情報を活用して、アルミニウム仕様製品の将来需要解析を行い、その精度検証を行うとともに、推計モデルの検討とデータ整備、モデル検証のためのケーススタディ等を行う。具体的には、疑似人流や気象情報、店舗情報などの様々な空間情報を組合せ、複数のカテゴリーにおけるアルミニウム使用製品の需要を予測するための解析モデルを開発する。また、モデルの開発にあたっては、精度検証や要因分析を行い、最適な特徴量の探索を行う。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	○	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	○	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	○	2003 ホーチミン(空間配分)	-
	2008 東京(空間配分)	○	2008 ダナン(空間配分)	-
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				5

2.53. 歩行者のトリップ距離分布を考慮した歩行者ネットワークの評価

共同研究番号	1219			
研究開始日	2022-12-16			
研究終了日	2023-03-31			
研究代表者	櫻井雄大			
研究代表者所属	東京大学 生産技術研究所			
研究題目	歩行者のトリップ距離分布を考慮した歩行者ネットワークの評価			
研究概要	<p>従来ネットワーク理論による街路ネットワーク分析は媒介中心性などの評価方法が多く、その評価は街路の幾何学的構造をよく示している。媒介中心性は任意ノードの組合せの経路上で起こる交通の分布として解釈されることが多いが、実際の交通量とギャップがあることが多い。ネットワークの中心性は、①ノードに対する重み付け、②エッジに対する重み付け、③起点と終点の組合せ(経路)の限定、といった諸条件の導入による現実への接近が試みられている。本研究ではネットワークの中心性に関する一連の研究のうちのひとつに位置し、中心性概念をより現実の都市空間に適合させるため、歩行者トリップの距離分布を考慮したものを開発する。これは①(ノードに対する重み付け)または②(エッジに対する重み付け)を経路により変化させるもので、より繊細に現実を描画しようとする試みである。</p>			
データセット 利用状況	1988 東京	-	2001 中京(空間配分)	-
	1998 東京	-	2001 静岡中部(空間配分)	-
	2008 東京	○	2011 中京(空間配分)	-
	2000 京阪神	-	2005 北部九州(空間配分)	-
	2001 中京	-	2004 岳南(富士市・富士宮市) (空間配分)	-
	2005 北部九州	-	2015 群馬(空間配分)	-
	1997 高知	-	2012 熊本(空間配分)	-
	1999 富山・高岡	-	2010 近畿(空間配分)	-
	2002 仙台	-	2016 東駿河湾(空間配分)	-
	2006 沖縄本島中南部	-	1996 マニラ	-
	2007 金沢	-	2002 ジャカルタ	-
	2007 西遠	-	2004 ハノイ	-
	1994 岡山県南	-	2009 ダッカ	-
	2005 秋田(秋期)	-	2012 マプト(空間配分)	-
	2006 郡山	-	2001 カイロ(空間配分)	-
	2001 宮崎	-	2010 ラホール(空間配分)	-
	2001 静岡中部	-	2013 ナイロビ(空間配分)	-
	1998 東京(空間配分)	-	2003 ホーチミン(空間配分)	-
2008 東京(空間配分)	-	2008 ダナン(空間配分)	-	
2000 京阪神(空間配分)	-	2012 プノンペン(空間配分)	-	
データセット利用数				1